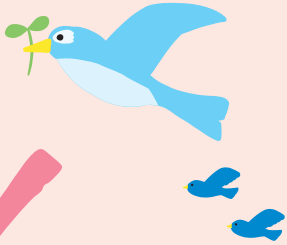
まえばし幼児教育充実指針



めぶく

第３版

― 幼児の育ち ―

子どもも大人も 育ち合うために

令和３年 11月改訂 第３版
前橋市・前橋市教育委員会

はじめに

幼児期は、1歳前後から就学前までの、人格形成の基礎作りとなる大事な時期です。毎日、新しいチャレンジを繰り返し、自分を取り巻く世界に少しずつ適応しながら、言語や運動能力、社会性などを身に付けていきます。

しかし、その発達は決して直線的なものでなく、踊り場があったり、らせん階段になったり。どのように関わればよいのかと悩み、不安になることも少なくないでしょう。

まえばし幼児教育充実指針は、幼児を育てるうえで、心にとめておいてほしい基本的な事項をまとめたものです。本指針は平成29年に作成されて以来、多くの保護者や保育者、地域のみなさまにご活用いただきました。これまでに寄せられましたご意見や感想など反映させ、今回、2度目の改訂を行いました。

新型コロナウイルス感染症拡大により、他者との関わりや体験活動が大きな制約を受けています。しかし、どんな状況にあっても、工夫をしながら、その時期に欠かせない活動をしっかりとサポートしていくことも必要です。ご家庭で、園･所で、そして、地域で、この冊子が、小さな冒険者たちを見守る方々の一助になれば幸いです。

前橋市教育委員会　教育長　吉川 真由美

目　次

※はじめに …… 1
※1　基本的な考え方 …… 3
2　全ての幼児に体験させたいこと …… 4
3　まえばし幼児教育充実指針「めぶく～幼児の育ち～」と
幼児教育センター（前橋市教育委員会）の支援 …… 5
※4　内容 …… 7
めぶきの1『外で遊ぶ』戸外で思い切り体を動かして遊ぼう！ …… 7
めぶきの2『友達と関わる』友達とじっくり関わって遊ぼう！ …… 9
めぶきの3『自然に触れる』身近な自然に触れて遊ぼう！ …… 11
めぶきの4『道具を使う』身近にある様々なものや道具を使おう！ …… 13
めぶきの5『食べる』いろいろなものをしっかり食べよう！ …… 15
☆with コロナ☆前橋市内の幼稚園・保育所等での工夫 …… 17
※5　「めぶく」の活用 …… 18
保護者や地域での活用 …… 18
参考資料 話し合い用シート …… 19
保護者や地域での活用例 …… 20
園・所での活用 …… 21
参考資料 研修用シート …… 22
園・所での活用例 …… 23
園内研修での実践活用例 …… 25
6　資料編 …… 27
資料1 幼児期に育みたい資質・能力 …… 28
資料2 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 …… 29

※改訂版で新たに追加されたページ

まえばし幼児教育充実指針
めぶく～幼児の育ち～

前橋のすべての幼児を育てるために必要な、基本的な考えや体験して欲しいこと等を示しています。

目指す子ども像

多様な人と協働しながら、主体的・創造的に活動する子ども

- 幼児教育において育みたい資質・能力
  「知識及び技能の基礎」
  「思考力、判断力、表現力等の基礎」
  「学びに向かう力、人間性等」
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 幼稚園教育要領
- 保育所保育指針
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- 小学校学習指導要領

根っこが大事！

地域の教育

国公立幼稚園

公立保育所

私立幼稚園

私立保育園

認定こども園

家庭の教育

子どもも大人も　育ち合うために

幼児期の教育は、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながっていきます。

幼児期「まえばし幼児教育充実指針 めぶく～幼児の育ち～」→小・中学校「まえばし学校教育充実指針」

1　基本的な考え方

幼児期は直接的・具体的な体験を通して人としての基礎が育つ重要な時期です。この時期は、子どもが周囲の環境を受け止め、自分から関わり、活動することを重視するなど環境を通して行う教育が基本です。子どもは遊びを中心とした活動を通して成長していきます。また、個人差の大きい時期なので一人一人の特性に応じることが大切です。

本指針では、幼児教育の基本を踏まえ、運動機能や自立心が育つために必要な体験として５つの内容を取り上げました。そしてこれらの内容にかかる体験を通して、どんな子どもに育ってほしいかという「目指す姿」と、なぜその体験が必要なのかを示し、指針となるようにしました。

幼児の保護者が、「子育ては大変なこともあるけれど、やっぱり楽しい」と感じられるように、そして、先生方が、幼児期の教育・保育の在り方に基づきながら自信をもって保育できるようにと願いながら作成しました。

この指針をもとに、一人一人の親や先生方、様々な地域の皆さんが、子どもの育ちを支えていくための大人の役割について、主体的に考え実践できるよう、教育委員会は皆様と協働して取り組みたいと考えます。

今回の改訂では、新型コロナウイルス感染症の影響で、人と関わることが大きく制限され、多様な体験の機会が失われつつある状況を鑑み、幼児教育に携わる先生方の戸惑いや子育て中の保護者の方の不安が大きい中、コロナ禍だからこそ大切にしたい幼児期の体験を踏まえて改訂しました。

また、前橋市教育委員会の実践園である前橋市立幼稚園の実践による「研修用シート」の活用例を掲載しました。

2　全ての幼児に体験させたいこと

めぶきの１『外で遊ぶ』

いろいろな場所で、十分に体を動かして遊ぶ外遊びを体験させたい。

めぶきの２『友達と関わる』

同年代の友達と触れ合い、喜びや悲しみを共にし、思いのぶつかり合いやそれを乗り越えて仲直りをすることなど、関わりを深める体験をさせたい。

めぶきの３『自然に触れる』

身近な自然と触れ合い、見たり、触れたり、においをかいだりして感じたことを通して、様々なものに興味・関心をもつ体験をさせたい。

めぶきの４『道具を使う』

遊びや生活の中でのお手伝いや作業などを通して、いろいろな材料や道具を使う体験をさせたい。

めぶきの５『食べる』

食べることに興味をもって家族や友達と楽しく食べる体験をさせたい。

3　まえばし幼児教育充実指針「めぶく～幼児の育ち～」と幼児教育センター（前橋市教育委員会）の支援

幼児教育センターでは、幼児教育に関する研修や就学支援など、本市の幼児教育を充実させるための様々な取組を進めています。その上に、本指針を活用して、次の２つの事業を推進します。

〇実際に園・所に出向いて保育を支援する。

現場研修

〇子育てについて親や地域の人等が話し合う。

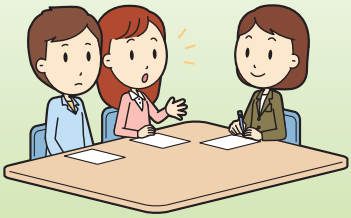
子育て井戸端会議

いずれも、幼児教育アドバイザーが応援します。

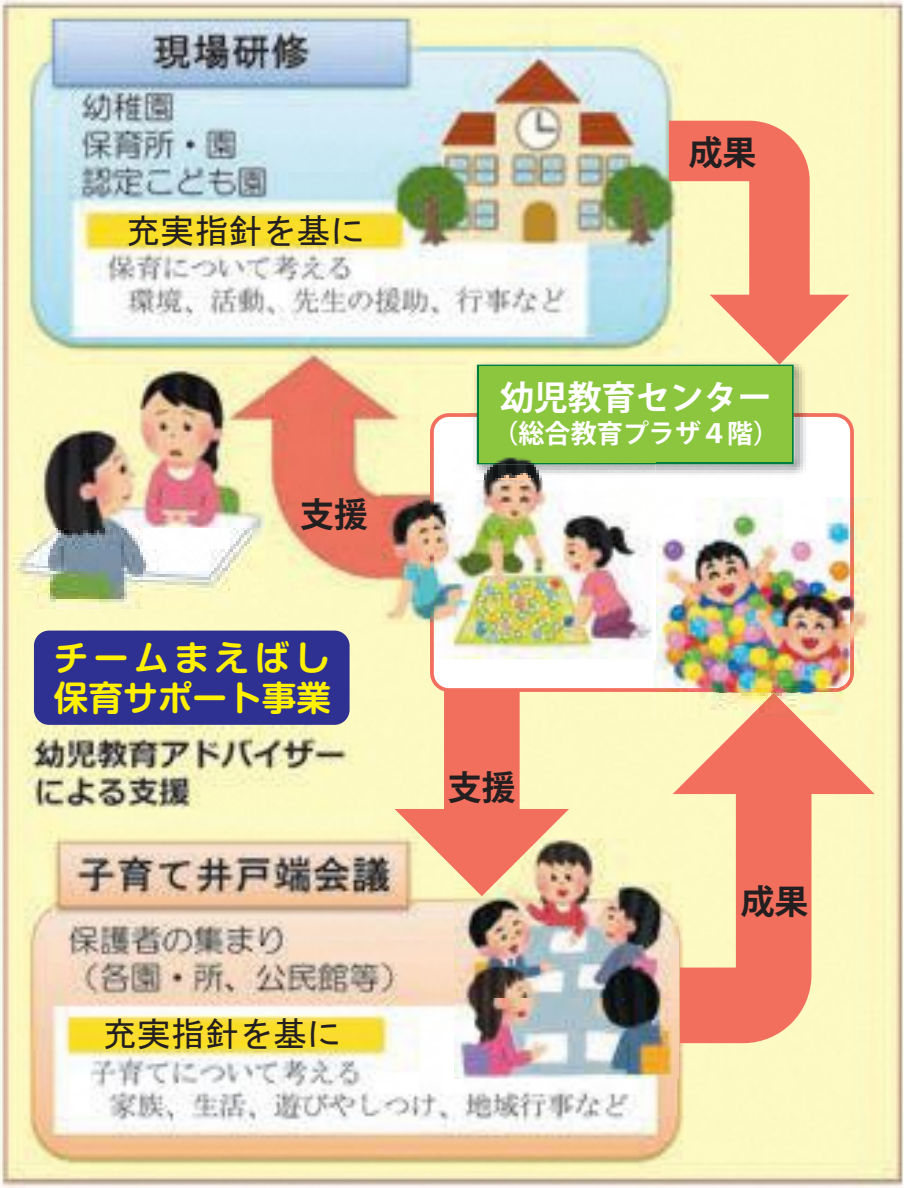
幼児教育アドバイザーとは・・・

幼児教育の専門的な知見や豊富な実践経験を有し、幼児教育施設等に出向いて教育内容や指導方法、環境の改善等について支援を行ったり、保護者の相談や子育てのアドバイスを行ったりします。

本市の幼児教育アドバイザーは、幼稚園長・保育所長・小学校長経験者、臨床発達心理士、大学教授、子育てサークル主催者等です。



幼児教育センターの支援の流れ



4　内容

めぶきの１『外で遊ぶ』

戸外で思い切り体を動かして遊ぼう！

子どもの思い・願い

もっと、たくさん
遊びた～い!!

保護者の気持ち

危なくないでしょうか？
熱中症やかぜが心配です。

でも…

こんな子になってほしい（目指す姿）

◉自分の体を自由に動かす
◉体を使って遊ぼうとする

※戸外の空気に触れ、開放感を味わいながら、全身を思い切り使って運動する楽しさを味わえるようにしましょう。例えば、近くの公園や園・所の園庭開放などを積極的に利用してみましょう。

★なぜ、外遊びが大切なのでしょうか？★

近年の子どもたちの生活の中では、運動できる状況を作らないと十分に体を動かす体験や外遊びの体験をすることが難しいのが現状です。

外遊びの重要性については、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の中で、遊びを通して体を動かす心地よさを味わえる活動を推進することが大切であると示されています。また、「幼児期運動指針（文部科学省）」には、この時期の発達の特徴（下表）を踏まえ、多様な動きを身に付けられるよう様々な遊びを十分な時間行うことが必要であると示されています。幼児が外遊びを体験できるよう、大人が状況づくりをすることが求められているのです。

時期	運動発達の特徴
3～4歳	未熟ながらも基本的な動きが一通りできるようになり、次第に自分の体の動きをコントロールしながら、身体感覚を高め、より巧みな動きを獲得することができるようになっていく。
4～5歳	基本的な動きが定着しはじめる。特に全身のバランスをとる能力が発達し、身近にある用具を使って操作するような動きも上手になっていく。
5～6歳	無駄な動きや力みなどの過剰な動きが少なくなり、動きが上手になっていく時期である。全身運動が滑らかで巧みになり、全力で走ったり、跳んだりすることに心地よさを感じるようになる。

「幼児期運動指針（文部科学省）」より

園・所の指導のポイント

- 外気に触れ、体を十分に動かす気持ちよさを感じられるような雰囲気づくりが大切です。
- 幼児の興味や関心が戸外に向けられるよう、遊具や用具を配置したり、先生が戸外で楽しむ姿を見せたりしましょう。
- 安全への配慮をしながら、自分の身は自分で守れるように危険回避をする力を育てましょう。

withコロナ

新型コロナウイルスの感染を考えると、戸外に出掛けることが不安になり、室内で過ごすことが多くなっていることでしょう。戸外での活動は、開放感や幼児の興味や関心を喚起し、ウイルスに負けない体づくりにもつながる等幼児の成長を促します。人混みを避けてできるだけ戸外で過ごすことができるようにすることも大切です。年齢や発達、熱中症等を考慮しながら、マスクの着脱を行っていきましょう。

幼稚園・保育所等での工夫は ⇒ P17

めぶきの２『友達と関わる』

友達とじっくり関わって遊ぼう！

子どもの思い・願い

友達と一緒に遊びたい。
でも、けんかすることも
あるよ!!

保護者の気持ち

仲良く遊ばせるって難しい！
トラブルになったら
どうすればいいのでしょう？

でも…

こんな子になってほしい（目指す姿）

◉人といる喜びを感じ、
　様々な思いのやりとりをする

◉友達と関わりながら、
　諦めずに物事に取り組む

※友達と親しみ、思いを巡らせ、支え合う体験をさせましょう。そのために、子どもなりの関わり方を見守り、気持ちを表す姿を認めてあげましょう。

★なぜ、友達と関わる体験が大切なのでしょうか★

幼児には同年代の子どもと関わる体験が重要です。大人とのやりとりとは異なり、思い通りにいかないこともあります。しかし､周囲の大人に自分を認めて受け入れてもらうことで安心感をもち友達と共に活動する楽しさを味わうようになります。その中で、友達とぶつかったり協力したりする体験などを通して、自己肯定感、自立心や協同性、規範意識などが育ちます。この時期の発達の特徴を踏まえ、子どもが自分から周囲の人と十分に関われるようにすることが大切なのです。

時期	発達の特徴
2歳ごろ	生活や遊びの中で自分でしようとする意欲が高まっていくことや、自分の意思や欲求を言葉で表そうとすることなどにより、自我が育っていく。「自分で」「いや」と自己主張することが増える。
3歳ごろ	挨拶に関する言葉を使い始める。「なぜ、どうして」などの質問をする。場を共有して遊び、友達を真似たり、時に遊具の取り合いがあるが分け合ったり、順番に使ったりする。
4歳ごろ	様々にイメージを広げ、友達と共有しながら想像の世界の中でごっこ遊びを楽しむ。自分と他人の区別がつき、自分の気持ちを通したい思いと思いどおりに行かない不安や葛藤を経験することもある。仲間といる喜びや楽しさを感じ、関わりが深まる。自分の主張をぶつけ合い受け入れてもらったり相手を受け入れたりする。
5歳ごろ	自分のことだけでなく人の役に立つことが嬉しく誇らしく感じられるようになる。大人の手伝いをしたり、年下の世話をしたりして相手の立場を気遣う。仲間と話し合いを繰り返し、ぶつかり合いがあってもすぐに大人に頼らず解決しようとする。
6歳ごろ	仲間の意思や仲間の中で通用する約束ごとが大事なものとなり、それを守ろうとする。友達の主張に耳を傾け、共感したり意見を言い合ったりするとともに自分の主張を一歩譲って仲間と協調したり、意見を調整したりしながら仲間の合意を得る経験をする。

「参考：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成27年2月）」他

園・所の指導のポイント

- 先生との信頼関係に支えられ安定した気持ちで生活することで、自己を発揮しながら友達と一緒に過ごせるようにしましょう。
- 幼児の主張のぶつかり合いや目的に向かう試行錯誤の過程を大切にし、一人一人を認めた支援をしましょう。
- 幼児の心に寄り添い、先生が共に行動しながら一人一人のよさが生かされる集団づくりをしましょう。

withコロナ

コロナ禍においても、幼児期の友達と関わることの重要性を考えると、十分な対策を講じたうえで多様な関わりがもてるような工夫が必要です。様々な制約があるなかでも友達と協同できる遊びの場を設定し、「一緒が楽しいな」「嬉しい」等の思いを育てることが大切です。幼稚園・保育所等での工夫は⇒P17

めぶきの３『自然に触れる』

身近な自然に触れて遊ぼう！

子どもの思い・願い

いろいろな草や花があるね。
虫やカエルをいっぱい
見つけたよ!!

保護者の気持ち

虫は気持ち悪いので苦手です。
自然に触れるには、どこで
何をしたらいいのでしょう？

でも…

こんな子になってほしい（目指す姿）

◉自然に触れて大きさや不思議さなどを感じ、
　好奇心や探究心をもつ

◉身近な動植物を命あるものとして
　大切に関わる

※生活の中で季節の変化を感じたり、身近な草花や虫や小動物と触れ合ったりして、諸感覚を働かせられるようにしましょう。子どものつぶやきや発見を受け入れる言葉をかけてあげましょう。

★なぜ、自然と触れ合う体験が大切なのでしょうか？★

子どもたちの生活をみると、テレビを見たりゲームをしたりする時間が多く、自然と関わる時間が少ないように思われます。また、子育てに関わる大人自身の自然体験が少ないために、子どもたちにどのような自然体験が必要なのかよく分からないという状況もあるのではないでしょうか。自然と触れ合う体験は、諸感覚を刺激し、感受性を育みます。また、自然の中で遊ぶことで、「なぜ」「どうして」「どうすればよいか」などを自分で考えて実現させる力が働きます。子どもたちが、周囲にある草や木、昆虫や鳥などの身近な自然に触れる体験が十分にできるよう、大人が状況づくりをする必要があります。

国の調査や審議会では、次のようなことが示されています。

「子どもの頃の自然体験が多いほど、大人になってからの物事に対する意欲・関心が高い人が多い」
「幼少期から小学校低学年の自然体験、動植物との関わり、友達との遊び等の体験が、共生力、人間関係能力、規範意識、自尊感情などと関係している」

（国立青少年教育振興機構の調査）より

「自然体験や地域社会での生活が子どもたちの社会を生き抜く力を養成する」

（文部科学省中央教育審議会答申）より

園・所の指導のポイント

- 身近な事物や自然に幼児がもっと関わりたいと思うように、園庭、園舎内の環境を工夫しましょう。
- 自然に関わる幼児のつぶやきや感動を把握し、一人一人の興味・関心や感じたこと考えたことに共感しましょう。
- 植物の栽培や動物の世話などを通して、成長への探究心や命を大切にする気持ちを育てましょう。

withコロナ

新型コロナウイルス感染症の拡大から、インターネットを活用して、様々な情報を入手する機会が増えているでしょう。しかし幼児期に大切にしたい「自然に直接触れることでその美しさ、不思議さ等を全身で感じ取る体験」をもつことは、幼児の心身の発達を促すことにつながります。花壇の花や虫の様子、天候の変化や季節の移ろいなど身近に感じる場を意図的に増やしましょう。幼稚園・保育所等での工夫は⇒P17

めぶきの４『道具を使う』

身近にある様々なものや道具を使おう！

子どもの思い・願い

紙を丸めたり、
空き箱を並べたり、
はさみで切ったり
するのって楽しい!!

保護者の気持ち

子どもが一人ではさみを
使うと危ないのでは？
何歳から使わせたら
いいのでしょう？

でも…

こんな子になってほしい（目指す姿）

◉身近な道具に自分で関わり、
試したり考えたりして探究する

◉感じたり考えたりしたことを
思いのままに工夫して作ってみる

※身近にある素材に触れて、物の特徴を感じたり、道具を使って物を作ったり壊したりして遊べるように、発達に応じて環境を整えましょう。道具を使う機会をつくり、大人が使い方を示した上で少し見守りながら使わせてみましょう。

★なぜ、道具を使って作る体験が大切なのでしょうか？★

物を作る活動は、手先の技術の向上はもちろん、様々な素材と関わることで、物の特徴に気付いたり、想像力を発揮して物を作ったりする力につながります。また、やってみたい気持ちが高まると、失敗しても何度も試すあきらめない態度や、道具を使えることの自信にもつながります。

大人は、幼児の可能性を信じて、手を出し過ぎずに見守る姿勢が大切です。

＜身近な物の例＞

紙、布、ビニール、段ボール、皮、木片、空き箱、紙皿、紙コップ、スポンジ、ストロー、爪楊枝、発泡スチロール、紙テープ、空き缶、瓶、ペットボトル、袋、筒、葉、花びら、枝、根、木の実、石、土、砂・・・

＜道具の例＞

筆記用具、のり、セロハンテープ、はさみ、カッター、ナイフ、包丁、まな板、皮むき器、栓抜き、缶切り、スプーン、フォーク、箸、金槌、釘、のこぎり、筆、はけ、砂場道具、ペンキ、ニス、ほうき、ちりとり、ぞうきん、ロープ、網・・・

園・所の指導のポイント

- 一人一人の興味に応じて、身近な遊具や道具に繰り返し関わり、考えたり試したりして遊べるような環境を構成しましょう。
- 友達と一緒に道具を使ったり、先生をモデルとして使い方を学んだりするなど、安全な道具の使い方を学べるようにしましょう。
- 幼児の発達や時期に応じて、ふさわしい道具等を考えて準備しましょう。

withコロナ

道具等を共有する際には感染の不安があると思います。幼児が心と体を働かせて様々な種類の道具を使う場面を大切にしながら、道具を使うことの良さが感じられるようにしましょう。使った後に、きれいにして片付ける方法や手洗い、手指消毒の大切さに幼児が気付いて行動していけるようにしましょう。 幼稚園・保育所等での工夫は⇒P17

めぶきの5『食べる』

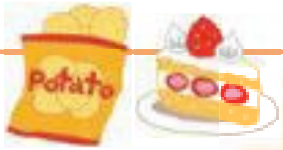
いろいろなものをしっかり食べよう！

子どもの思い・願い

ご飯より、お菓子が
食べたいな!!
みんなで食べると楽しい!!

保護者の気持ち

嫌いなものを
食べさせるのは難しい。
毎食、家族そろって
食べるのは難しい。



でも…

こんな子になってほしい（目指す姿）

◉おなかをすかせて、栄養バランスのよい食べ物や様々な食材をよくかんで食べる

◉誰かと一緒に食事することを楽しみ、必要な基本的習慣やマナーを身に付ける

※健康な心と体を育てるためには、進んで食べようとする気持ちを育て、望ましい食習慣が身に付くよう「食」の体験を充実させましょう。そのために、食事も含めた生活全体のリズムを整えるように早寝、早起きや運動量などを見直してみましょう。

★なぜ、望ましい食習慣が大切なのでしょうか？★

社会生活が変化するとともに食生活も変化してきました。その結果、朝食を食べない、夕食が夜遅い等の生活習慣の乱れ、肥満や痩せ、生活習慣病などの問題が生じる等、「食」が国民的課題となっています。中でも次世代を担う子どもたちが、生涯にわたり自分の健康を管理し食生活を営んでいく力を幼い時から育てておくことが重要です。

国が策定した「食育推進基本計画（平成18年～）」では、子どもの「共食」の機会の大切さや食に関する体験活動の充実、多様な暮らしに対応した食育の推進が示されています。また厚生労働省では子どもの食育に関するガイドを出しています。以下は、そこで示された学童期前までに育てたい「食べる力」です。この時期の食べる体験が将来につながっていくことを踏まえ、大人が状況を整える必要があります。

食事のリズムがもてる	おなかがすくリズム→１日３回の食事や間食のリズム
食事を味わって食べる	いろいろな食品に親しむ 見て触って自分で食べようとする量を調節する
一緒に食べたい人がいる	家族と一緒に食べることを楽しむ 仲間と一緒に食べることを楽しむ
食事作りや準備に関わる	栽培、収穫、調理を通して食べ物に触れる 食べて生きていることを実感する
食生活や健康に主体的に関わる	食べ物のことを話題にする

「参考：楽しく食べる子どもに～食からはじまる健やかガイド～」厚生労働省より

園・所の指導のポイント

・食べることを楽しめるよう、楽しい雰囲気にするなど食事の場の環境を工夫しましょう。
・食べようとする気持ちが育つよう、野菜の栽培や地域の人との調理交流等を行い、食べ物への興味・関心を高めるようにしましょう。
・衛生面やアレルギー等への配慮をし、一人一人の状況に応じた援助をしましょう。

withコロナ

食事の場面は、マスクをはずして生活できる貴重な機会です。感染防止の対策を講じながら、大人の口の動きや楽しく食べる表情を可能な限り伝えましょう。また、「バランスの取れた食事」に加え「適度な運動」「十分な睡眠」を心がけることにより、身体全体の抵抗力を高めることにつながります。 幼稚園・保育所等での工夫は⇒P17

取り組み例を紹介します

☆with コロナ☆前橋市内の幼稚園・保育所等での工夫

めぶきの1『外で遊ぶ』

・園庭で遊ぶ時には、年齢や発達、季節に応じてマスクをはずしてもよいとしています。その際、保護者の承諾を得る、密にならないような環境の工夫、園庭の使用時間の調整、「庭ではマスクをはずしましょう」の視覚的表示を活用するなどの対応や工夫をしています。
・熱中症とマスクの着脱については、環境省が提供している暑さ指数（WBGT）の数値を色分けして掲示し、「警戒レベル」の表示（赤）により、子どもが自分で気付いたり友達と伝え合ったりしてマスクの着脱をする目安にしています。

めぶきの2『友達と関わる』

・室内では、マスクを着用（３歳以上児）することで、子ども同士が関われるようにしています。その際、密を避けるため遊具等の間隔を空けて遊びのスペースを広くしています。
・子どもが分散して行事に参加する等の工夫により、子ども同士の多様な関わりを確保したり、年長児へのあこがれの気持ち等をもてるような機会にしています。
・友達との関わりの嬉しさや楽しさを伝えたい時には、一瞬マスクをはずして声を出さずに満面の笑顔を子どもに見せるようにしています。また、フェイスシールドを活用する場面もあります。

めぶきの3『自然に触れる』

・園所内の環境を見直し、子どもと一緒にミニビオトープを整備したり、野菜や果物の栽培、生き物の飼育に取り組んだりして、土、草花、虫等に触れる機会をもてるようにしました。
・見つけた虫等を子ども同士で一緒に見ることができる容器や机、虫取り網や図鑑等は数を多めに用意をしました。
・園庭に来る鳥や空の雲の形、刈った草や芝のにおいなど、先生が敏感に受け止め、子どもが見たり触れたり臭いを嗅いだりして感じる機会を逃さないようにしています。

めぶきの4『道具を使う』

・道具を使う前と後には手洗いや手指消毒をすることを繰り返し取り組んできたことで、子どもが自分で気付いて行い、手洗いや手指消毒の必要性を感じてきています。
・道具の数を多く、また、子どもの人数分を用意しました。更に共有していた物を個人用にしたことにより、子どもが道具を使いたくなる思いが高まり、「道具を使ってみたら、こんな物ができた！」と心が動く姿がみられるようになりました。
・家庭から持ち寄った空き容器等は、すぐに使わずに一定の期間（２週間程）を置いて使うようにしています。また、家庭から持ち寄ることを見直し、園所で材料や素材を準備しています。

めぶきの5『食べる』

・給食の時は、子どもや先生の間に、透明のアクリル板を設置して、食べている表情がわかり、友達と一緒に食べる楽しさが感じられるようにしています。
・園内で育てた野菜は、家庭に持ち帰って食べてもらうことで、家庭と連携した食育につながりました。
・給食の時間は会話を控えますが、距離を保ったうえで先生や友達の顔が見えるような配置や楽しい雰囲気が感じられる音楽をかける等の工夫をしています。また、テラスや園庭の芝生で給食を食べる時もあります。

5　「めぶく」の活用

保護者や地域での活用

○話し合いの展開例 A

「話し合い用シート」を使って進めてみましょう

1　めぶきの1～5から話し合いのテーマを決める。
2　子どもに体験させるにあたり、心配な点を出す。
　　または、幼い頃を思い出して各自の体験を交換し合う。
3　今の子どもたちの状況と、体験させたいことや子育てへの思いを話し合う。
4　大人の役目について、自分の立場でしたいこと、できることを話し合う。

○話し合いの展開例 B

グループに分かれて話し合いを進めてみましょう

1　幼児教育アドバイザーから話題提供をする。
2　話題提供に関わる各自のエピソードを紹介する。
3　話題提供の内容について感じたことを出し合う。
4　今後どうしていきたいかを考える。
5　話し合った内容を共有する。
6　幼児教育アドバイザーがまとめる。
7　各自で振り返る。

※個人情報に関わることは、十分、配慮した話し合いをしましょう。

参考資料【話し合い用シート】

みんなで考えよう

自分の幼い頃を思い出して

今の子どもたちは？

体験させたいこと　　どうして?

大人の役目

活用例を紹介します

保護者や地域での活用例

「話し合い用シート」をもとにした子育て井戸端会

話し合いのテーマ めぶきの1『外で遊ぶ』

みなさんの小さい頃を思い出してみましょう

※ 必要に応じて『話し合いシート』にメモ書きします。

いろいろな虫を捕まえたり、オタマジャクシがカエルになるまで飼ったり、自分の腕に這わせてみたりいろいろなことを試したなあ・・・

家の近くに普通に自然があって、毎日そこで遊んでいました。ブランコも滑り台も何もなかったけど、楽しかったなあ・・・

小さい頃から虫が苦手で、触れなかったの・・・。

今の子どもたちは、どうですか？

子どもがいろいろな虫を飼ってます。でも …。世話をするのは 結局 親の私・・・。

市街地に住んでいますが、虫が飛んできたり、散歩の途中で草花を見つけたりします。子どもが気付くのを見て、親も「あれっ!」と気付くことがあります。

子どもに体験させたいこと、皆さんの願いはどんなことですか？

私が小さい頃に経験したことを、子どもにも経験させてあげたいな。

私は虫が苦手だけど、子どもが嬉しそうに捕まえてきたら、虫を見て「ダメ」と「キャー」を言わないようにがんばる。

「危ないから、汚れるから」と、先回りして止めてしまうことがよくあります。もうちょっと待ってあげたほうがいいのだろうなと思うのだけど・・・。

※ 公民館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、リモートでの話し合いを実践している所もあります。

園・所での活用

○現場研修を進めましょう。　～本冊子を生かしたテーマで保育を考える～

1　めぶきの1～5について職員各自の思いや願いを出し合う。

2　めぶきの1～5が、園・所の環境や教育計画でどのように実現されているか考える。

3　めぶきの1～5が、自分の保育でどのように実現されているか考える。保育記録やエピソードをもとに協議する。

4　参考資料【研修用シート】を活用して、明日からの保育に向けて子どもにとって大切な環境や援助など、協議した内容をまとめる。

○本冊子と国の要領や指針との関わりを明らかにし、保育を見直しましょう。

1　めぶきの1～5が、国の要領や指針の中でどのように記述されているか、また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（29・30ページ参照）にどのようにつながっているかなど、読み合わせる。

2　1で明らかになったことを基に、保育を振り返ったり見直したりする。

〈国の要領や指針〉

「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」
「幼稚園教育要領」
「保育所保育指針」

【エピソードから考えよう】

保育のある場面から

そのときの保育者の思い・意図

子どもにとって大切な環境や援助

今後に向けて

活用例を紹介します

園・所での活用例

「研修用シート」を保育所（園）・認定こども園・幼稚園・小学校の合同研修会で活用した例

めぶきの2『友達と関わる』

保育を見て、どんなことを感じましたか？

先生の意図はあるけれど、まず、子どもの言動を受け止めてから、さりげなくそれを伝えていました。

先生が、子ども同士の自然な関わりをゆったりと見守っていました。

先生が、「見て。」と、相談して進めている友達の様子を紹介すると、他の子たちもその様子を見ていました。子どもたちにとって具体的でわかりやすかったと思います。

みなさんの校園所では、どうですか？

私の園の子どもたちも、自分の思いを出して遊び、自分の作りたい物を作る経験をたくさん重ねる中で、友達と一緒にこういうのを作りたい、という意欲が育っています。

私は、授業でグループで活動をする時に、児童に「グループ活動をさせること」に意識がいきがちです。児童がその活動の中で何を感じているか、そこでどんなことを学んでいるかを丁寧に見ていくようにしたいです。

小学校でも、児童が箱を持ち寄って図形の勉強をします。
児童は、初めは自分の箱だけで活動していても、友達の箱と合わせるともっと楽しいことを知っていて、「友達と一緒にやりたい」と言ってきます。園・所でのこのような経験の積み重ねが、小学校の学びのもとになっているんですね。

子どもにとって大切な環境や援助はどのようなものでしょうか？

先生は、子どもが考えたり試したりする姿や、「友達と一緒に作る」という意識になっていく過程をゆったりと見守っていました。「それ、いいね」と認める言葉を、たくさんかけていました。だから、子どもたちは、自分たちのペースで進められたのかな。

私だったら、材料を出す時にグループに一山あげて、そこからグループみんなで選ぶようにするかな。材料選びからグループの子どもたちに任せると、「自分たちの」という意識がその後の活動につながりやすいと思うからです。

研修用シートにまとめると…

みんなでロボットをつくろう

【エピソードから考えよう】

保育のある場面から　子どもの姿を含む概要（年長児 10月）

学級全体で相談して、グループの友達4～5人で一緒に、箱や紙類を使って１つのロボットを作ることになった。それぞれのグループで、絵を描いたり、自分のイメージを伝えたりした後に、材料を集めて作り始めた。「（牛乳パックの）この線まで切ろう。」と友達に伝える子、「うん。」と応じて自分の牛乳パックも同じ線まで切る子。「ここを付けたいけど付かないんだ。」「ガムテープで付けようか。」「ここ付ける？」「ちょっと長めにね。」「うん、ちょっと長めにね。」などと、やりとりをしながら２本の牛乳パックをつなげて太い足ができあがった。その様子を見ながら、一人で箱を重ねていた子が、「これ、どうする？」と２人に話しかけた。もう一人の子は、その箱に紙皿を重ねて見せた。

そのときの保育者の思い・意図

子どもたちが「グループのみんなで１つのロボットを作る」と決めたので、友達同士で相談したり、協力したりして作れるといいなと思いました。絵を描いてイメージを共通にするのは難しいと思ったので、「作りながら、友達と考えてみよう」と提案して、製作に取りかかりました。どの子も、グループの中で、その子なりの参加の仕方で、楽しく作れるようにしたいと思いました。

子どもにとって大切な環境や援助（話し合いで出された意見）

・先生が、どの子の発言や行動も受け止めていたので、子どもたちもグループの友達のことをお互いに受け入れている雰囲気が感じ取れた。
・先生は、さりげなく、「みんなで」ということを子どもたちに意識させていた。
・モデルになるような子ども同士のやりとりを、他の子たちにも紹介していた。
・みんなで作るためには、材料の出し方や材料の選ばせ方を工夫すると、さらに子どもたちの意識が「自分の」から「自分たちの」へと向いたのではないか。

今後に向けて

幼児教育アドバイザーより

「グループの友達と一緒に、一つのロボットを作る」この活動の中で、子どもたちは、いろいろな経験をしています。　例えば･･･

○自分たちの「作りたい」という目的に向かって行動しようとする。（健康な心と体）
○考えたり工夫したりしながら、最後まで作り上げようとする。（自立心）
○友達と共通の目的に向かって、協力して作ろうとする。（協同性）
○物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、友達の様々な考えに触れたり、自分で判断したりすることを楽しみながら作る（思考力の芽生え）などです。

この活動を通して、先生は「ロボットの完成」を目的にしているのでなく、子どもたちにどんな経験をさせたいか明確にしてありました。また、これまでの経験や育ちを経て、今後、子どもたちのどのような育ちを願っているかについても、しっかりと考えられていました。
子どもが、遊びを通して総合的に学びを深めている姿を、丁寧に見ていくことが大切ですね。

＊ 保育所（園）、認定こども園、幼稚園、小学校の先生方が一緒に、同じ保育を見て、幼児教育アドバイザーと一緒に話し合いをしました。

活用例を紹介します

園内研修での実践活用例

【研修用シートを活用した市立幼稚園園内研修例】内容については園に許可を得て一部改変してます。

話し合いのテーマ めぶきの2『友達と関わる』

【 エピソードから考えよう 】

幼児が自分で決めた遊びに取り組む中で、友達との関わりを深めていくことにつながる環境の構成や援助について、写真をもとにして話し合った。

「これならできる?」3歳児10月

・2日～3日前からフープを使った遊びに取り組む姿が見られたので、この日はフープの数を増やした。
・A児がフープを一列に並べ始め、「先生、見て!」と片足で最後まで跳んで見せた。
・「楽しそう!」と、教師もA児の跳ぶ姿を真似て跳んでみると①、数人の幼児が集まってきた。

・遊んでいる間に並ぶフープの間隔が広がったり、列が曲がったりし、列の最後まで跳び、「ゴール!」という遊びに変わった。
・途中で、B児が「先生、これも!」と、並んだフープの間にサツマイモのつるを置いた。「網渡りみたいだね。難しいね～。」と教師がサツマイモのつるの上を渡った。すると、A児が「これは、ダメ!」とつるを全部取り払った③。B児は何も言わず、つるを戻すこともなかった。

・教師は、新たにジャンプ棒をB児に見える場所にそっと置いた②。するとB児は、並んだフープの最後のところにジャンプ棒を置き、高くしたり、2本にしたりしながら「これならできる?」と言った。他の幼児はB児が作った物に興味を示し、跳び越える遊びを楽しんでいた。

【 そのときの保育者の思い・意図 】

・友達と一緒に過ごしたり、同じ遊びをしたりする楽しさを味わってほしい。

・それぞれの遊びへの思いを満足させてやりたい。工夫や新しい発見を大事にしたい。

・A児に却下されてしまったB児の対応として、ジャンプ棒を提示したことはよかったのだろうか。

・それぞれの違った遊びへの思いを実現することが難しい。幼児同士がお互いのイメージを共有できるようにするための教師の関わりや環境の構成を考えていきたい。

【 子どもにとって大切な環境や援助についての話し合い 】

①**教師が一緒に遊んだことについて**　A児が考えた遊びを教師も楽しんだことで、年少児が数人の友達と同じ場所で遊ぶ経験につながったのではないか。また、同じ場所で遊ぶことで、これまでと違った遊び方に気付くきっかけにもなったのではないか。

②**ジャンプ棒を出したことについて**　ジャンプ棒を出したことは、A児に提案を却下されてがっかりした思いのB児が新たな遊びを考え、実現することにつながったのではないか。幼児の興味や遊びの流れに応じて遊具の種類や数を調整してみることは大切なのではないか。

③**思いが共有されなかったことについて**　幼児が考えたことややりたいと思うこと、そしてそれに面白さを感じて参加したいと思うことなど、教師が幼児の思いに目を向け、彼らの思いを受け入れたり、認めてあげたり、時には代弁して言葉で伝えたりすることで、幼児同士がお互いの思いやイメージを共有することにつながるのではないか。

④**幼児の遊びの自己決定について**　幼児が自分で遊びを決めていけるように、教師は見守り、幼児の気付きやひらめき等の内面を理解し、心の動きに沿って対応していくことが大切なのではないか。

（意見を付箋に記入して添付）

今後に向けて

話し合い後の担任の気付きや思い

・教師がA児の遊びを真似して同じようにやってみた援助は、数人の幼児が同じ場所での遊びを経験することにつながったことを確認した。幼児の遊びを受け止めて一緒に楽しむことをしていきたい。
・遊具の数の調整については、状況や幼児の思い、心の動きに沿った対応が必要となり、とても難しいと感じた。今後は幼児が何を実現したいのか等をより深く見ていく必要がある。
・年少児であっても幼児は自分で遊びを選び、道具を選び、どのようにして遊ぶか、自分で決めていることに改めて気付いた。
・幼児の遊びをより深く観察し、彼らの思いに目を向けることの大切さを確認した。
・友達と一緒に遊ぶことで自分の思いが通らないこともあるが、一緒に遊ぶからこそ新しい遊び方に気付きより楽しいと感じることにつながっていくのだろう。

その後（話し合いを保育に生かす）

＊幼児の思いや考えを言葉にして代弁して他の幼児に伝えていこう

　ジャンプ棒を並べて迷路を作っていたＣ児は他の幼児が参加しようとすると、「まだ！」と強く言った。遊びたいと思う幼児の思いを教師がＣ児に「工事が完成したら先生も○○くんも遊びたいです。」と伝えるとＣ児は「まだ完成していません。」と言った。教師は他の幼児にＣ児の思いを「ただ今、工事中です。完成するまで少々お待ちください～」とアナウンスをする形で伝えた。Ｃ児は自分の思い通りに迷路が完成すると友達に「完成でーす。」と自分の作った迷路について解説をしながら一緒に遊ぶ姿が見られた。

6　資料編

資料１　幼児期に育みたい資質・能力

資料２　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉
（内閣府・文部科学省・厚生労働省）」
「幼稚園教育要領〈平成29年告示〉（文部科学省）」
「保育所保育指針〈平成29年告示〉（厚生労働省）」　フレーベル館　より

その他

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開〈令和３年２月〉
（文部科学省）」
「幼児理解に基づいた評価〈平成31年３月〉（文部科学省）」

資料1

幼児期に育みたい資質・能力

小学校以上

知識及び技能	何を知っているか、何ができるか
思考力・判断力・表現力等	知っていること、できることをどう使うか
学びに向かう力、人間性等	どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか

小学校との接続

遊びを通しての総合的な指導

主体的、対話的で深い学び

保育所（園）　幼稚園　幼保連携型認定こども園

知識及び技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。

思考力・判断力・表現等の基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

資料2

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体

（幼保連携型認定こども園における生活）（幼稚園生活）（保育所の生活）の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

紫・・・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
青・・・幼稚園教育要領
赤・・・保育所保育指針

思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

言葉による伝え合い

（保育教諭等）（先生）（保育士等）や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

まえばし幼児教育充実指針
『めぶく～幼児の育ち～』についてのお問い合わせは…

問い合わせ先

幼児教育センター
（前橋市総合教育プラザ４階）

〒371-0035 前橋市岩神町３－１－１

TEL 027-230-9089
FAX 027-230-9099

発行元　前橋市・前橋市教育委員会
発行日　令和３年 11月
印刷所　ジャーナル印刷株式会社